理事長先生が日常お茶を飲みながら話す事を、不定期で掲載する事になりました。
講演会とはちょっと違うお話も今後聞けるかもしれません。お楽しみに。

保育園にいると、今まで思い込んでいた子どもの像とは違う姿を見る事があります。今回は、泣き出した赤ちゃんを少しだけ年上の女の子が泣き止ませようとする姿と、保育園での子ども達が書いた七夕の願い事の短冊。あぁ、保育士さんや親御さんが良い教育をされてるんだなぁと思い、理事長に話すと全く違うお話が返ってきました。価値観が変わりました。

「人に優しく出来ない子はいません。子供にまかせなさい。」

○大人はね、この写真の女の子みたいな関わり方は出来ないのよ。例えば、言葉とかが先に立っちゃうのよ。教えようとする。だけど、子供ってさりげなく言葉もなくするでしょ？大人はね、子どもの真似ができないし、レベルがね、違う。子供がずっと高い。女の子はね生まれた時からもともと持っている母性があって、寛容さやガマン強さ、自制心、真面目さ、コツコツと努力する忍耐力など、つまり子育てに欠かせない性質は、生まれた時からすべての女性に平等に備わってるの。だから、女の子の育て方としては、そうした素晴らしい心を伸ばしてあげる事に心を注いでください。教えようなんて思わないで。

そして、もう１つ、この時期っていうのはね、いつも言うけど、神の領域にいるって。どういうことかっていうとね。特殊な力を持っているの。７才までは、神の領域にいるってそういうことでしょ？特殊な力、我々大人には想像できない力をもっているの。その力で色んな事をね学んで行くの。

○七夕の短冊に子ども達がこの様に自分の気持ちを表現できるってすばらしいね。（文字もキレイだがね。字がキレイだから書きたがる、勉強したがる。）大人はこの写真を見て子供達の優しさを学ばなければならないのかなぁと思うね。そういう素晴らしい心を持っているのに親が手をかけすぎたりしてあるいは、押し付けたりして、そういう芽を摘んで行くんだ。しっかり子供達を見つめて、一番ダメなのは押し付けるとか手をかけすぎるとか。そうじゃなくて子供の才能を信じて子育てをして欲しいなぁって思います。